



二十世紀最後の年



会長 平田 耕司

誰でもいうように二十世紀は、我が国もそうでしたが世界中で戦争と抗争が続いた世紀でした。ところが戦後の日本は幸に平和が続き、経済も大きく伸び、私達の生活も大きく変わり、社会も国も激しく変化しました。そして本年は西暦二千年、二十世紀最後の年です。私達は今その中であって健康でいることは誠に幸運であるといえます。

同窓各位におかれてはご健勝で各方面において活躍のことと思いますが昨今は国内だけでなく遠く海外で活躍の方も多いことでしょう。最近はそのようなビジネスからだけでなく、私達のような高齢者でも容易に海外旅行ができ、或は海外で暮らすことができる世の中になりました。海外からの我が国への来訪者も増え、それも多民族となつて更に身近になりました。私はこれらのことから二十一世紀は益々国際化が進み、やがてポータルレス時代(国境を感じない時代)へと発展するような気がします。欧州共同体(E.C.)は早くからそれを進め、インターネットの普及、又最近のアジア諸国も大きく変わりつつあります。我が国も英語を第二公用語にする話も出ており、これからの日本人は近隣国の言語を含めバイリンガル(二カ国語を話す)が普通になるかも知れません。

年輩者にとつても二十一世紀はどのような社会に、国に、或は世界になるのだろうかとか興味と共に少しでも永生して確かめたくありません。

ところで今春東京格致会の本年度基本活動話しあうため全体会議(全役員・全幹事が出席)を開催しました。その際ある幹事から

昭和三十五年(一九六〇年)十二月現在とある「庄原高等学校京浜支部同窓会名簿」なるものの提示がありました。その時の支部長は著名な三上英雄氏(故人)、幹事等に現在も元気に活躍の永井 岩氏(大正八年格致学院ご入学)、田部幸雄氏(昭和十年ご卒業)、そして細川謙三氏、酒井久幸氏、田中茂樹氏、兼利卓蔵氏、明賀 馨氏(現事務局長)の名をみることができます。

一九六〇年といえは終戦後十五年目で国内は日米新安保条約の強行採決があり全学連の国会突入という誠に騒がしい年でしたが岸内閣から池田勇人内閣に移り政治から経済へと「所得倍増計画」が打出された年でもあります。本年はそれから四十年目というわけです。東京格致会は先輩各位のご尽力により少なくとも四十年の歴史をもち今日の発展に到つていふことに心から感謝と敬意を表する次第です。

前記全体会議ではそうしたことから本年は画期的な年でもあり十月七日の総会を「ミレニアム総会」とし今までよりも賑やかな会とするべく、出来るだけ多くの同窓が相集まつて懇親いただく場を準備することにいたしました。特に今後、若い同窓の多くの俊才が国内外で活躍されることでしょう。それらの方々も是非ともこの総会に参加され豊富な体験をもつ先輩各位と親しく交流されるのも有意義であると思えます。

どうかこの総会には多くの同窓の方々のご参加を賜わり、故郷の話とともに賑やかで楽しいひとときになりますよう期待しています。(昭和二〇年卒)

第 8 号

2000年9月

発行人・平田耕司
編集人・友広 寿

本号の内容

- ・二十世紀最後の年 (会長)
- ・二〇〇〇年を生きる (同窓会長)
- ・母校近況報告 (母校校長)
- ・綺麗星だった恩師たち
- ・介護保険に思う
- ・山形の仲間
- ・独英閑話
- ・南国のマレーシアより
- ・海外縁の思い出(必須の英語について)
- ・いつも予期せず何かが
- ・起る楽しみかな我が半生 瀨尾明雄
- ・再びメキシコを訪ねて 岡山康男
- ・初めての外国への旅 渡辺昭典
- ・平成十二年度基金出資者名 桑原草子
- ・平成十二年度総会の御案内
- ・年会費についてのお願



母校近況報告

広島県立庄原格致高等学校校長 福永 恭司

梅雨にたつぷりと雨が降る加減でしようかアヤマやアジサイが一段と美しく、七塚原の備北丘陵公園や県立大学附近に新しい花の名所ができています。

昨年の秋の台風により校門を入るとシンボルのように聳えていたもみの木が倒れ、バックネット付近のヒマラヤ杉と共に伐採せざるおえない状況になりました。

しかし、その後新しく二代目の植栽がなされ伐採された大木は地域の協力でベンチとして次の役目をする事になりました。

同窓生から前庭の噴水池には大きな鯉が寄贈され生徒の心を和ませていきます。

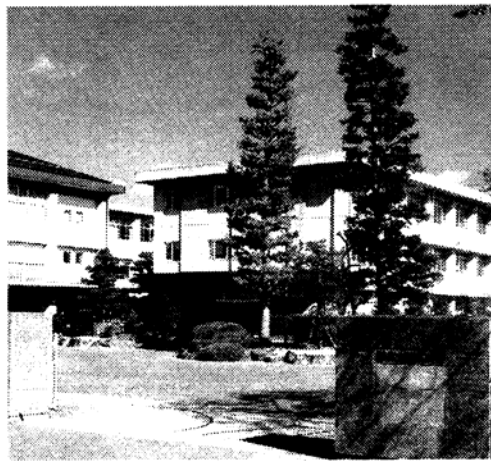
伝統を誇る本校の強さでしょうか、同窓生を始めとした地域の方々の本校を気遣う気持ちが伝わり生徒も「全国に轟く学校にしよう」と勉学にクラブ活動にと励んでいます。

その結果、なぎなた部が県総合体育大会で優勝しインターハイでベスト十六位入賞しました。

また、音楽部の松村春菜さんが本年秋季に広島で開催される国民文化祭のテーマソングで見事グランプリを獲得し、その曲「未来の風」は西田ひかるさんによって全国に流れる準備が整っております。

このような生徒活動は新入生をさらに奮立たせクラブ加入率は昨年を上回り体育系クラブ八十%、文科系クラブ三十二%にも達してほぼ全員が加入しています。

始業前の練習に硬式野球部、ソフトボール部、陸上部、ソフトテニス部、吹奏楽部等が



参加しています。

これらに出来るよう県教育委員会で本年年度体育館のピロティに柔道、剣道場、トレーニングルーム、シャワー室、部室等の建設と旧格技場の撤去と女子寮のリフレッシュ工事を開始していただきます。

教育活動を見計らつての工事ですので来年度夏の竣工予定です。

一方、本県では生徒の学力向上が急務であり施策として県内に十三校の推進指定校を定め事業を進めておりますが県北で一校だけ本校も指定を受け学校をあげて取り組みを始めた。

シラバスによる指導と共通模擬試験、授業

研究、検定試験の導入等を行い全校生徒の学力のレベルアップを図ります。
また、新教育課程を先取りし「総合的な学習」を全学年に導入し生徒が主体的に学び将来の目標を掴み学力向上に役立つよう実施しております。

施設面でも生徒の自習室として特別教室に空調を入れ、放課後自主学習できるように三室の整備を本年度中に行います。

卒業生の進路状況ですが、それぞれが目標に向かって努力を重ね、広島大、早稲田大、島根大、大阪市立大、産業医大、香川大、広島県立大、大阪外語大、広島女子大、山口大、愛媛大、広島県立保健福祉大、岡山県立大、立命館大等百九名(六十九パーセント)の者が大学進学を果たし、三十名(十九パーセント)の者が専修・専門学校に進んでいます。

終りにあたり、東京格致会の方々の今後の益々のご活躍とご健康を祈念いたしますとともに、本校への一層のご支援をお願い申し上げます。

二〇〇〇年を生きる



同窓会長

伊達 正治

時は九月、黄菊、白菊の薫る季節となりましたが、その後東京格致会の皆様方にはお変わりございませんか。お元気で活躍のことと拝察申し上げます。

二十世紀最後の二〇〇〇年もはや八カ月が経過しました。

新千年紀という記念すべき年に生かされている喜びと感謝の思いを噛みしめながら、馬齢を重ねている今日この頃です。

かえりみれば、一九四五(昭和20)年八月の終戦まで私は飛行第五戦隊に所属して国土防衛の任にあたっていましたが、生命あって除隊復員しました。軍国主義から一転して民主主義となり、戦後の混乱・食糧不足の中でひたすらに経済復興のために働いた汗は、

現在の「便利で豊かな生活」を構築したものの、一方皮肉にも物と金の至上主義と自己中心主義のはびこる病める社会風潮を招来していることは誠に残念なことです。

政治・経済・教育など現下の各界を展望するとき、社会全体に閉塞感と不安感が漲り、更に諦観の声すらきこえる状況です。政治家や官僚の汚職は絶えず、饒舌な詭弁がまかり通り、また東海村臨界事故にみられる「核」の問題や公的資金の理不尽な取り扱い、凶悪事件の頻発など、現今の少子高齢化社会は深刻な脅威にさらされています。視点を拡大して付言するならば、自然破壊・人類を含めて地球全体が危機にあるとも言われます。

去る六月の衆院選、七月の沖縄サミットも結果は予想通り。
唯一、感動的だったことは朝鮮半島の南北両首脳が笑顔で熱い握手と抱擁した映像でした。両雄の勇断と和解は歴史を動かす政治家の大きな存在感を余りなく発信しました。

これこそ「対立」を超えて「共生」の核なき二十一世紀への扉を拓く姿であると強い感銘を受けました。それに比べ、広い世界観や未来への高い理想のある先見性、国家百年の大計がみられない旧態依然たる我が国政治家のスケールの小さい貧弱な見識には、唯々、慨嘆するばかりです。

ひるがえって、私は近年無性に昔生活の場にあった「茶臼台」や「火鉢」、小川のメダカや乱舞していた蛸など、昔のモノや長幼序ありの人々の姿に郷愁を覚えます。然し、唯「昔が良かった」とか、政治家の貧困な理念を嘆くだけではなく、私達自身が温故知新、日本古来の伝統文化の心を堅持して、それを現代の病める社会生活に生かす工夫をして、この二〇〇〇年が明るく夢のある次の二十一世紀への確かな懸け橋の年になるように、会員の皆様方と共に心を尽したいものと念願している次第です。

東京格致会のご発展と会員皆様のご健祥を祈り欄筆いたします。

綺羅星だった恩師たち

昭和二四年卒 坂井 昌彦

昭和一八年三月、広島県立格致中学校に入學した。

もはや半世紀以上のかたに饜んでいるが、軍国少年はカーキ色の制服・戦闘帽、編上靴にゲートルの勇ましいいで立ちで校門を潜った。太平洋戦争もたけなわ、少年は本気で祖国を護ろうと考えていた。中学入学は、いわば当時の成人式であり、重要な通過儀礼であった。気合は充分、見るもの聞くもの全てが新鮮で魅力に溢れていた。

英語・数学・物理・化学・博物・西洋史・東洋史・漢文……。初めて出会う目の眩むような教科群だ。それに先生たちが素晴らしく輝いていた。我々はもはや児童ではない、大人の生徒である。時折ボカリとやられはしたが、先生は本気で生徒に向き合ってくれた。

『KINGS CROWN READER』を毎章暗記させた厳しい脇田(薙尾)亨先生の英語、

「夏・殷・周・秦・漢・三国・晋・南北朝……」と授業の始まりに国名を斉唱させた濃厚な松島雅美先生の東洋史、国文法のメカニズムを理路整然と説いた谷口勝利先生、ゆっくりペーイスで諄々と世界を語る下口光明先生の地理、定理・法則を淡々と解析する哲学者のような豊原訓治先生の物理、生物の進化・遺伝など新しい情報を早口で語り続ける博物の道広正等先生など……。

戦後、学制が代わってからの先生もまた素晴らしかった。東京から疎開していた山本和夫先生の級数・微分・積分の授業のおかげで苦手の数学が楽しくなった。経済思想を踏まえた藤田四郎先生の世界史(自主補習)で目

洋光繊維株式会社

代表取締役

木村 貞 寧

(昭和25年卒)

〒013-0004 東京都墨田区本所4-9-10

電話 (03) 3623-3176

ジャズギターの名手

JOE PASS 写真集発売中

写真撮影 有限会社スタジオ宮角

tel.042-580-6455 fax.042-580-6456

E-mail miyakaku@calen.ne.jp

http://homepage.mac.com/miyakaku/

昭和41年卒業 宮角孝雄

から鱗が剥げ落ちた。また音楽の中村哲二先生も忘れられない。クラブ活動でコーラス・クワルテット(タークダックスより古い!)・音楽(英語)劇の指導を受けたが、先生のおかげでプラスチックバンドも誕生したし、芸大に合格する生徒さえも育つようになった。

文芸・演劇活動では、金近豊彦先生に火を付けられた。男だけでデュークホフの『桜の園』、ストリンドベリの『父』などと取り組み、大胆不敵にも地方公演まで打ったが、この収益が音楽室などの増築に役立ったはずである。ラジオの coils をほくして作った金髪の鬘の美女(?)は、今なお語り草となっている。ここからも映画・演劇人、放送界のプロが果立って行った。

また上級学校受験の準備と称して、期末試験を中止しろと井上博校長に掛け合って一喝されたこともある。これは終戦直後「民主主義」という魔法の言葉を唱え、自信喪失した大人たちの腰が引けるのに乗じた悪戯鬼どもの横車だったが、硬骨校長に見事に撃退された凶である。後にも引けず、仲間たちとその試験をボイコットしたため、当然その学期の成績は急降下してしまった。ところが、受験の内申書(成績証明)を覗いたら無傷! 温情で命拾いした。

振り返ってみて、あの母校には、後に大学で学んだ教授たちを凌駕する学識と魅力に溢れた先生が、綺羅星のごとく揃っていたことに改めて驚いた。やがて社会に出て、志望どおりマスコミで働くことができたが、自分の仕事を支えてくれた基礎知識・情報のあらかた「格致時代」に培われたものであることに気がついた。

現役を退いて雑文書きを楽しんでいるが、格致時代に身につけたこの財産を、今なお少しづつ取り崩しながら暮らしていることを幸せに思っている。

介護保険に思う

昭和三〇年卒 恵木 弘

今年の4月から介護保健が施行された。それだけ日本の社会では、介護の必要な老人が増えてきたことを物語るものでしょう。

私の母が一昨年脳出血で倒れた。83歳という高齢のため、もし助かっても寝たきりの状態になるでしょうとの医師の診断であった。しかし、有り難いことに順調に回復し、右半身は不自由ながら、車いすの生活が出来るまでに回復した。

我が家は薬局の仕事をし、私は漢方薬の輸入の仕事で、家を空けることが多い。母を自宅で介護するにも、人手がなく、リハビリケアセンターにお世話になっている。

母が病院を退院後、老人保健施設に入所して、たびたび通って、感ずることがある。私も現在63歳、自分もいずればこのようなところで世話にならないかならぬかと。私よりも若いと思える人も何人かいらっしやる。

日本の医療は世界的にも高水準と言われるが、ただ生きていくだけの人を見守っているしかないのか。考えさせられてしまうこの頃である。

私は東洋医学に縁があつて、約30年ほど漢方に関する仕事をしているが、漢方に関する世の中の常識が少々違っているように感じている。

「漢方薬は慢性病に使用するもの、作用が穏やかで副作用もなく安心して服用できる」というのが、多くの人が漢方に対して感じられることでしょう。

しかし、数年前に生じた「小柴胡湯による間質性肺炎による死亡例の副作用」が報道されてから、漢方に対する期待が薄れたのか、

平成4年をピークに漢方の市場は約半分近くまでに縮小してしまっている。

私が思っている漢方薬は、まず第一に、急性病に使うもので、その効果は驚くほど早く現れるもの。第二に、漢方の真の目的は「未病を治す」といって、現在「生活習慣病と言われる成人病」などを未然に防ぐことができる医学であると思っている。介護保険があるから将来は安心だと、思っている人は居ないでしょう。「寝たきりになったら、ばけてしまつたらどうしよう」と不安を抱えています。

人間いずれかは死ぬときが来るが、それまで、元気で自分のことは自分で出来る健康を保ちたいと私は思っています。これは万人の願いでしょう。健康な老後の生活を期待するために、もつともつと東洋医学の英知を学び、先人の残してくれた知恵を活かしたいと思っているこの頃です。紙面の関係で詳しく書けないのが残念ですが、多くの皆様も、もつともつと漢方に対する関心を持っていただきたいと願っています。

山里の仲間

昭和三七年卒 寺川 勝海
(富士コカ・コーラ勤務)

軍鶏(シヤモ)のタタキ、紅鮭とまい茸とギンナンのホイル焼、なら茸のスープ。

これは料理屋のメニューではない。昨年十月の日曜日、厚木市の、とある山里での野外料理のメニューである。

厚木市の郊外にすんでいる私は、三年前の春、近くの山里を犬と散歩の途中、採ったばかりの山菜の天ぷらを肴に、車座になつてにぎやかに談笑しているグループ「荻野の自然と親しむ会」に偶然出会い、このメンバーに加わることになった。

酒井会計事務所

税理士 酒井 久 幸
(昭和25年卒)

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町
2-13-28
電話 (03) 3255-8995

株式会社 龍 壽 司

椎名 喜多子

(旧姓：室伏) (昭和30年卒)

東京中央卸売市場魚河岸フードセンター
電話 (03) 3541-9517

厚木市は神奈川県中央の交通の要地で、急激に都市化が進んだ町であるが、市の北部は東丹沢と呼ばれる私の生まれ育った広島県の西城と地形が似た山岳地帯で、宮ヶ瀬湖、飯山温泉、七沢といった自然に恵まれた地域も多い。「親しむ会」は、この一角にある萩野地区の山里を地主から借り受け、山林の手入れをしながら自然と親しんでいるグループである。

会の主な活動は、県の植樹祭のイベントへの参加、白上山地など自然保護地域の見学のほか、間伐材を使った炭焼きや、一般市民を招いてのきのこ狩りなどである。会員は現在女性を含め二十五人で、大半は五十代。職業は、会社員、公務員、農業など多種多様だ。

普段の活動は毎週日曜日。参加者は通常十四、五人で、時々友人や家族を同伴する会員もいる。お客は大歓迎だ。作業は季節やその日の天気にもよるが、チエンソー、草刈機、シャベルなどを使って、林の間伐、下草刈、菖蒲を育てている湿地の手入れのほか、椎茸などきのこの栽培もする。別の何人かは料理づくり。

会費は毎回千円で、会員が持参する野菜以外は、少し離れたスーパーで調達する。差し入れも時々届く。根室に転動した会員からは蟹や鮭、帰省した仲間からは故郷の特産物。福島のあんこうや私の持参する広島の牡蠣などは最高だ。山形の食用菊「もつてのほか」は名前の由来も面白く美味。ハンターの仲間が仕留めた猪や鹿の新鮮な肉も何度か味った。仲間の多くは料理の腕前も確かだ。包丁さばき、隠し味の使い方、笹などを敷いた盛り付けの妙。器は粗末だが、工夫と心遣いで料理が引き立つ。冒頭のメニューはほんの一例だ。料理が仕上がる頃、作業を終えた皆が、炉端に集まり「打ち上げ会」が始まる。一汗かいたあとの一番楽しい時間だ。話題には事欠か

ない。会話がはずんで広がっていく。会社を離れたこうした仲間との付き合いは、肩が張らず、たまっていたストレスもいつのまにか解消し、皆の顔も実になごやかに見える。私も含め、やがて定年を迎える人が多いが「定年になったら、一緒に土地を手に入れ、自然を相手に時計を少しゆっくりに廻して過ごしたいね」が合言葉になっている。実現できる日が楽しみだ。

海外特集

独英閑話

昭和三九年卒 山城 建治

1994年から4年半、仕事の関係でドイツと英国に滞在した。その間に感じたことや想い出などを思いつくままに記してみたい。

「ドイツ（デュッセルドルフ）」

ドイツ中西部にあるライン川沿いの商都デュッセルドルフに着いたのは、94年の明けた1月始めのこと。冬のドイツは日照時間が極めて少なく午後3時過ぎ頃にはもう辺りは暗い。最低気温も氷点下10度位、寒い日は15度位にまで下がることもあり、広島山奥に育った私には些か身に堪える。

到着の翌日が日曜日だったので、早速、中心街のホテルを出て寒い街に出てみたのだが、人通りは疎らで店も閉まっていて閑散そのもの。聞こえてくる音といえば、時折通り過ぎる車の音と、近くの教会から聞こえてくる鐘

の音くらいのもの。まるで街中が深い眠りの中にあるような全く活気の無い様子に驚いたものだ。後になって分かったのだが、当時ドイツでは土曜日の午後から日曜日にかけて営業が禁止されていて、ガソリンスタンドなど例外を除き、ほとんどすべての店が閉まってしまう。そのため、人々は営業時間内に急いで必要な買い物をし、後はゆったりと静かに自分の時を過ごしている。そのうえ日曜日などの休日には近所迷惑になるような大きな音をたてることも禁止されていて、家の中でひっそりと過ごすという有り様。

暗くて長い冬が終り4月半ば頃にもなると徐々に日が長くなり、夏至の頃には夜10時過ぎまで外は明るい。こうなるとひと仕事終えた後でも、近くのゴルフ場でワンラウンドは出来るし、テニスなどのスポーツも、家に帰って庭仕事に精出すことも出来る。一日が二倍に使えるといった感じで何となく得をしたような、心うきうきとした日々が訪れる。

ドイツ人もこの時とばかり燦爛と降り注ぐ陽光を身体一杯に受けとめようと日光浴に勤しむ訳で、なかには一糸纏わぬ姿で寝そべっている人もいたりして目のやり場に困ることがある。

デュッセルドルフは人口約60万人。当時、日本人は約6千人が住んでいて大半が日本企業の駐在員家族のため、帰任や赴任のため、5年毎にメンバーが変わっていくといった状況。市の中心街には日本食品店や日本料理店などが集まっているインマーマンシュトラッセという通りがあり、ウィークデイの夜ともなると日本人サラリーマンが赤提灯の店で仕事の憂さを晴らしたり、また、土曜日の午前中などには一週間分の買い物しようとして、父親の運転するベンツのカンパニーカーなどで家族揃ってやって来る。通りをちよつと歩いている間に何組もの知り合いに遭遇し、その

株式会社 吉 濃 美

相談役 佐 近 萬 之 (昭和25年卒)

京懐石みのきち 新宿住友店
〒163-0000 東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル 48階
電話 (03) 3346-2610

能 飯 電 視

代表取締役 和 泉 由 起 夫 (昭和41年卒)

飯能ケーブルテレビ株式会社
〒357-0015 埼玉県飯能市小久保19-1
TEL 0429-74-3611 FAX 0429-74-3612
E-mail info@tv-hanno.co.jp

度に挨拶を交わすという状態が出現することになり、その様たるやさながら日本人街の様相。狭いところに6千人もの日本人が居ると、まるで日本の地方の小さな町のように私など故郷の庄原を思い出したりもした。

こんな具合だから、日本人にとつて住みよいと感じる人とそうでない人と印象は様々だ。歌手の岩崎宏美がご主人(当時)の勤めの関係でデュッセルドルフに来たのも丁度この頃。この狭い日本人社会では生活していけないと思つたのか、結局は一週間くらいですぐに帰国してしまつたとか。それも肯けるような気もした。

【英国(ミルトンキーンズ)】

一年半のドイツ滞在の後、これまた仕事の関係で英国のミルトンキーンズという、ロンドンからほぼ真北に90キロ(広島市内から庄原までくらい)のところにある人口25万人の街に移つた。ロンドンへの人口集中を緩和するため、30年位前から開発された職住接近のニュータウン。その地に散在していた古い町や集落をうまく取り込みながら原野を開き、全く新しい街づくりをしたところで、近代的なビルと住宅が整然と立ち並んでいる。ここにも企業の駐在員家族中心に日本人が500人程度住んでいるが、デュッセルドルフとは対照的に意識的に行動しないとなかなか日本人に会えない。

英国といえば、バブを抜きにしては語れない。新興都市ミルトンキーンズにも集落毎にバブがあり、古い茅葺きの農家を改造して農機具などを壁面に飾つた落ち着いた雰囲気のところや、60年代の小物を集めてビートルズなどその当時の音楽を流しているところなど、それぞれ趣向を凝らしたバブがたくさんある。夕方や休みの日など、近くの住人や仲

間が三々五々集まり、ピターやラガーのパイントグラスを傾けながら雑誌や議論に熱中している。私も時々近くのバブに出かけていては、よく聞き取れないイングランド訛りの英語を聞きながら持てる限りの日本語英語を動員して、何となく分かつたような分からぬような話に興じたりした。ユーラシア大陸の東西の端に位置する日本と英国が、同じような島国でありながら、その辿つてきた歴史に大きな違いがあるのは如何なる理由によるものかなどといった大それた話題もあった。

(このテーマは未だに私の研究(?)課題。)

英国の人達は古いものを大切にする。ある中流の英国人家庭に伺つた時など、親の代から使つていふという食器や家具を今も大事に使つていふなどという事は当たり前で、リビングルームにあるオーディオやテレビも随分と古びたものが置いてあつたりする。中古住宅でも古ければ古いほど値段が高く、新築の何倍もする築何百年という家が飛ぶように売れるのだそう。

英国滞在中の忘れられない出来事としてあのダイアナ妃の不幸な出来事があつた。97年8月31日、パリでの不慮の事故死。9月の初めの国民葬には英国全体が休日となり国民全員が喪に服した。葬儀の後、妃の棺はミルトンキーンズの隣街の近郊にあるアルソープという街に埋葬されるため(M1と呼ぶ)モーターウェイ一号线を静かに進んでいった。我々も棺を見送るため沿道に駆けつけ出かけたのだが辺りは黒山の人集りで、棺を乗せた車が近づくと人々は手にした花束を投げかけ誰からともなく拍手が沸き起こつた。あの拍手にはどの様な意味があつたのか未だによくは分からないのだが、その場に居た日本人の我々にも、何となくあの場合「拍手」という行為が一番相応しい意思表示のように思えた。



アルソープの実家に向うダイアナ妃の棺。

【ドイツ・英国に住んで感じたこと】

他にも想い出はたくさんあるのだが、通算4年半のドイツ・英国滞在中に感じたのは、人々の環境に対する配慮が徹底しているということ。英国の人達が古いものを大切にしていることは前にも触れたが、ドイツでもゴミを出すことにかけてはとても厳しく、分別収集は当たり前、ビールや清涼飲料水などの瓶は回収、スーパーの袋は有料でみんな自前の買い物袋を持参する。また、踏み切りで電車の通過待ちをする時などはエンジンを切るのは当たり前などなど。我々日本人は余りにも安易に物を捨ててはいないか。

また、街づくりという面でもいろいろ考えさせられた。ドイツなどでは、庭の芝生や玄関前の雑草が伸びていたりしうものなら即座に隣近所から苦情が殺到したり、場所によっては窓辺に花を飾るよう強制されたりする。

《健康と美容のコンサルタント》

合資会社 めぐみ薬局

代表社員 惠木 弘

本店 川崎市高津区新作4-11-19
電話 044(888)3000
支店 川崎市宮前区東有馬5-22-6
電話 044(866)2426

中国広東料理

山水楼

本店 東京都千代田区丸の内3-1-1
国際(帝劇)ビル2~3階 TEL 3212-3401

英国などでは、家の外壁の材料や色まで規制がある。勝手気ままには出来ないところもある。こうした、個人に対する干渉以外のなにもでもない規制も、街全体の住環境が大変良好に保たれることで、結局はそこに住む人達が快適に暮らしている訳だ。英国では、毎年保存状態の良い町や集落のコンテストが行われ、賞を受けた町や集落の入り口にそのことを誇らしげに表示しているとある。

確かにその集落に足を一歩踏み入れたとたん、得も言えぬ安堵感を覚えたことが度々ある。日本では今、いろいろと規制緩和が叫ばれているが、本当に必要な規制とそうでないものを峻別する知恵が必要ではないだろうか。規制緩和の名のもとに勝手気ままに行動した結果が、却って自分達自身の生活環境を悪化させている例は枚挙に暇が無い。これからの日本を考えさせる独英滞在であった。

南国のマレーシアより

昭和四一年卒 根来 正

今年でサラリーマン生活29年に成ります。そのうち約12年間を海外で過す事に成りました。約7年間をサンフランシスコ、シカゴ、今年で5年目をマレーシアのクアラルンプールで毎日、朝夕コーランのお祈りを聞きながら充実した日々を過しております。(?)

未だ大半の方はマレーシアと言えばゴム、パームのプランテーションと錫鉱山と言う認識が抜けきらず当地を訪れた方は皆一様に近代化されている事に驚かされます。特に1990年代に入ってからの変わりようは凄まじく高層ビル、空港、港灣施設、競技場等の新設及び拡充、高速道路にいたってはアメリカのハイウェイに何ら劣りません。こうしたインフラ整備と人件費等のコスト

メリット、及び政治的安定性を求めて日系企業約1350社進出しております。

日系を含む外資企業が進出した御陰で経済は急成長し、生活水準も向上しておりますがマレー人から見ると従来誰からも邪魔されることなくのんびりと日々を過していた生活から余りにも環境の変化が急変している戸惑いと共に所得格差、教育格差が問題に成りつつあります。

マレーシアはマレー、チャイニーズ、インド人から成る多民族国家の為夫々の宗教、伝統的民族行事、習慣、衣装、食事等、非常に多彩であり島国でほぼ同一文化で育った日本人としては当初戸惑いの感を隠せませんでした。慣れしてくると逆に興味を引き楽しむ事が出来ます。しかし、仕事の面では毎日イライラの連続で忍耐の重要性を再確認しております。

例えば宗教上やむお得ませんがモスレムは一日5回お祈りをしますので仕事中であれ、会議中であれ時間になればぞろぞろとお祈り室に入ってしまう中断するケースもししばしば起こります。又、特に一年間で厳しい時期はラマダン時でありこの熱帯下でありながら日中は水は勿論の事、食べ物も口に入れる事は出来ませんし、中でも敬謙なモスレムは唾さえ飲み込む事を拒みます。

この様な状況の中での就業効率と言うに及ばないこととはご察知の通りですが我々外資がその国の文化を理解していかない事には解決の糸は解けません。

日系を含め多くの駐在員は文化の違いからフラストレーションが溜まっています。その解決方法は手軽に楽しめるゴルフ、テニス、釣り、又リゾート地(テオマン島、ランカウイ島、ペナン、トレガンヌ)への逃避行で鋭気を養っております。マレー半島の東海岸の海の透明度は世界的にも有名で美しい白い砂

浜、青い空に常夏の太陽は自然の宝庫であり経済的にみても他に比較できません。(インターネットで検索可能)

私はリタイアしたならば是非とももう一度のんびりとマレーシアの東海岸を廻ってみたいと思っている所にチャイニーズスタッフとインド人スタッフが何やら言い争っている。マレースタッフの言いに来ましたので簡単なマレーシアの紹介を此れにて終わります。最後に皆様の来馬をお待ち致します。

海外経験の思い出 必須の英語について

昭和四〇年卒 瀬尾 明雄

ニューヨークでは会社駐在員として、家族と約三年過しましたが、帰国から、すでに十三年が経過しました。私および家族にとって貴重な経験です。

高校卒業までの庄原の生活では、海外での生活なんて夢にも思っておりませんでした。庄原に英語を話している外国人の方が居られたでしょうか。英語は入試の必須科目として学んだに過ぎません。

大学一年前期、英語で合格点が取れず、後期に追加の授業を受け、必要な単位の確保をしました。友達に誘われ、英会話のクラブに入りましたが、ついでに短期間で退部しました。大学での専門科目のなかでも、あまり英語は必要ありませんでした。

船舶工学科を卒業し、当然のように造船所に入社しました。当時、日本の輸出額は船舶が一位であり、注文生産である船舶の建造には、海外の船主との交渉、仕様書の作成、外国人監督との交渉等が多く行われていました。今でも同様な状況は続いています。先輩の

ミュージック前

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町二二〇一九
電話(〇三)三二〇八一〇四六六
一 番館ビル六階
自宅(〇三)三四六〇一六六三四

十勝ワイン & ブランデー

希少な 辛口の 伝統

トカッポ

……ご用命は下記へ……

北海道池田町東京事務所
東京都中央区日本橋2-3-18
TEL03-3278-0236
FAX03-3278-0604 担当: 佐藤茂子

専門知識と英語が出来ることに尊敬とあこがれを感じました。

仕事上の必要性から、社内の英会話教育を受けると共に、英字新聞の講読をしたり、駅前にある英会話塾に何年も通いました。なんとか英語での仕事が出来るとレベルにあると社内でも認められ、駐在員を一度は経験してみたいという、私の希望をかなえてくれました。

ニューヨークの事務所には、他部門の駐在員もおり、日本人は十人位居ましたので、会社生活は日本と余り変わりませんでした。

我々と仕事の話をする外国人は、必ずしも英語が母国語ではない人も多く、ゆっくり、我々の理解を確かめながら話してくれました。

しかし、現地での耳から入る英語は、テレビニュースをはじめ、最後まであまり理解できませんでした。ともかく周囲の人達に助けられ、駐在員生活は、何とかやり終えました。現地校に通った娘は英語が上達しましたが、小学二年生で日本に帰ると、すぐに忘れてしまいました。しかし、大学入試のヒアリングには少し役立つよう、英語力に重点を置いた大学に受けました。一方私の方は、帰国後は英語を使うような部署から外れ、現在に至っています。勉強した英語も大方忘れてきました。また英語が必要になれば、対応する元気が出てくるのでしょうか。必要になれば何とかしたいとは思っています。

いつも予期せずにかが起きる

楽しきかな我が半生

昭和二十七年卒 岡山 康男

我が半生の歴史的背景

私が現在の広島県立格致高等学校を卒業してから、四十八年が過ぎました。卒業後の人

生を予見させるように敗戦の翌年の一九四六年に格致中等学校に入学して格致高等学校校舎の火災と学制改革があり庄原実業高等学校の側に位置した比婆西高等学校と称していた。を卒業するまでに四つの校名に通学しました。小学校の名前も三つです。会社の名前も二つです。同じ学校や会社について、たびたび校名や社名が変わるといふ面白い人生でした。それだけ戦前・戦後期における激動の歴史の中で時を過ごしたことになるでしょう。現在はバブル崩壊後、グローバル化の波と、金融改革のあおりで、会社などの合従連衡は日常茶飯事となり、大銀行や大会社が合併したり、破産したりして、新聞紙上を賑わしています。私が勤めていた会社の合併(一九六八年)は、当時、非常に均衡の取れた良いケースであるとマスコミなどが評価したのを覚えています。

私が大学を卒業した一九五二年は、今よりも大変な就職難で「Jターンして何とか呉にある造船所に就職しようとした。大学に入る頃は、文系はつぶしが利くからよいとかわかれ、その気になって、いい加減な気持ちで入学してみたところ、四年たつて卒業の頃は、理系の時代になっていました。文系にいったもう一つの理由は、高校三年生の時に、今はもうないかもしれないが、解析Ⅱで三角函数の微分・積分が出てきてやる気無くしたからかもしれないが、一九六〇年代に入ると、就職難はどこ吹く風、売手市場となり、それが一九八〇年代の終わりまで高度成長が続く、一九九〇年正月明けの株式市場の大発会での大暴落を境目に、皆さんもご存知の様にはバブルがはじけて、一転惨澹たる経済状態になってしまった。これが今までの私の半生における経済的背景です。

になり、「やみ屋」や「やみ市場」とかも死語になり、百貨店にもかかなりの商品が並び始め、惨めな日本国という状態からは脱してしまいました。その後は、先にも書いたように、全ての業界とは言えないが、広島県出身である池田首相の「所得倍増論」の掛け声のつて、その後は田中角栄首相の「日本列島改造論」にけしかけられて、行けいけどんどんと右肩上がりの経済大国日本への道をひた走った。その中で造船所は蚊帳の外で、景気の波が激しく百万トンドックの建設競争もむなしく、石油危機に遭遇して造船不況となり、幾度かの雇用調整、今で言うリストラが行われた。このような社会的背景が私の半生でした。

造船所の始まり
造船所に入社して、最初に配属されたのが「資材部倉庫課鋼材係」。道路を隔てて海側が工場で山側が本部事務所です。ひとり寂しく海側の工場の敷地内にある事務所に通ったのを覚えています。その後、中央倉庫(いろんな造船の部品を格納しているところ)に転籍となった。倉庫課に配属された時に、現場の年配の人に言われた一言が忘れられません。「倉庫課にいたのでは、良い嫁さんが来ないよ」と。その時の私の気持ちは、想像に難くないでしょう。これは皆さんの想像におまかせするでしょう。更に、希望の山側にある資材部購買課に変わった。この課名からは原材料・部品等を買って付ける部署であると思われ、などを調査・分析して、その中からムダ等を排除する合理化に関する仕事をしています。当時はコンピュータのない時代でした。そして、六年間続いた資材部をあとにして、まったく違った世界に変わる事になった。異なつた世界へ
戦前には世界一を誇った日本商船隊でしたが、戦時中殆ど全ての船が日本陸海軍の徴用

東京格致会の皆さまには
日頃大変御ひいきにして
いただいております

お晩菜

くにしき

渡辺 廣子

〒107-0000

東京都港区赤坂三丁目六番十七号

56九源ビル一階

電話(03)三五八五-一六〇六三

ご予約(03)三五八四-〇七五五FAX共用

囲碁に興味を持っている仲間と 出会ってみませんか

〈囲碁同好会 入会希望者募る 東京格致会〉

●入会手続き(官製はがき 10月末締切り)●

氏名(ふりがな)・電話番号・現住所・郵便番号・出身地・年齢
記入の上、下記世話人へ連絡下さい。後日、詳細連絡します。

代表 友広 寿(S27年卒) 世話人 合田良三(S33年卒)

★世話人→囲碁同好会担当 近藤正昭(S28年卒)

〒214-0013 川崎市多摩区登戸新町56-3 TEL/FAX 044-922-8923

を受け、輸送船として陸海軍の将兵、軍用貨物等の輸送に従事し、護送の任務に就くべき駆逐艦もなく、商船隊は丸裸の状態に護送船団を組み南方に赴いたため、米海軍潜水艦の格好の餌食となり殆どが海の藻くずと消えていった。最近、大蔵省と銀行の関係を「護送船団方式」と世間では言っているが、護送船団と言う意味が戦時中の護送船団と一寸違うように思います。今となっては銀行などが沈没していくのを見ると、本家すじの日本商船隊の末路と同じに思い、あわれであります。

戦後いち早く、商船隊の復興を国の方針とし、「計画造船」と言う名のもとに次々と商船を建造していった。しかし、その量は造船所の建造能力を満たすほどの受注量ではなかった。その頃、ヨーロッパの造船所の建造船台が不足となり、日本の船台が空いていることにヨーロッパの船主が目を付け、注文が来るようになった。最初、彼らは困ったから日本に発注したところだが、日本の建造技術の優れているところが外国の船主にすぐに分り、有史以来の長い造船景気がやってきた。そして、日本が世界一の造船国となった。品質、価格そして納期(ものづくりで一番大切な「需要の三要素」という)がヨーロッパのそれらより格段によいことが分かってきました。それらの優秀さは、かつて世界一の戦艦「大和」を建造した造船技術等が役立つことは言うまでもありません。それを支えた技術者たちや現場の技能者たちの戦後における努力の結晶でもあったことを、忘れることはできません。今は低価格攻勢に押されて、韓国が造船量では世界一になっています。しかし、製品開発力や品質、納期においては、まだまだ日本の方が上であることは確かです。また盛返し世界一の座に振り返る時が必ず来ると信じています。

「おまえは資材に六年もいるし、大学を出

ているから英語くらいはできるだろう」と言われて、外国船営業部に異動と相成った。これから私の面白くて厳しい人生の始まりである。英語は嫌いな学科ではなかったが、特に勉強したと言えるのは受験英語までで、辞書を引き引き五、六行の英文和訳と二、三行の和文英訳ができる程度でありました。外人相手に本物の英語をしやべる機会も聞く機会もそれまで一切なかった。たまにNHKラジオの平川英語講座が進駐軍の英語放送を聞き流す程度だった。でも本気で聞いたことはなかったと思う。「This is Far East Network」と言っている事が、全く聞き取れなかったくらい、私の英語はお粗末なものだった。かように心もとなない私が色々な人々(船主監督)と英語の会話で渡り合わなければならなくなった。あなたならどうしますか。

異動の辞令をもらった晩、「ロンドンに行けるぞ」と女房に言った事があるらしい。それを女房は未だに覚えていて、困っています。異動の最初の朝、早速、外人監督の誰かから電話がかかり、前に座っていた女性タイピストが受話器を私に突出し、「三上さん(旧姓)電話(二つ)名字を名乗りました」と言われ、受け取ったまではよいが、相手が何を言っているのかまったく分からない。やっと監督の名前を聞きだし監督の事務室に行き、冷汗を流しながら用件を何とか聞き出し、「返事は後する」と言って帰ってきた。二、三通りのシナリオの答えを頭に叩き込んで、腹を決めて監督室へ行くことになる。こう返事を伝えたら、相手はこう答えるだろう。こう答えたら、こう言おう。ああ答えたら、ああ返事をしよう。と言う具合である。

ところが、うまい具合にいかないのが常である。相手もびびくりだろう。このようにことを幾度繰り返しただろう。これが我が英会話

の実地訓練(on-the-job training)であった。読み書きはどうであったか。ちょうど運悪く、上司の課長が出張で不在の時に、発注者の船主から長い長い質問状の手紙が届いた。辞書片手に手紙を英訳し、関係者から日本語の返事を貰い返事の手紙をまとめたが、英訳の段になってさあ困った。

今までの私の英訳は、「昨夜来の雨が止み、今朝は天気は良くなり、外出日和である。」と言ったような短文しか訳したことがない。難行苦行の上、英文タイプにしてA4サイズの紙4枚くらいの返事原稿を書くのに、半日以上掛かっただろう。タイピストに英文タイプの手紙に仕上げ貰って、上司が不在なので自分で代行サインをして、やっと送り出した。それからまた不安の毎日である。相手が私の英文の意見が分かり、しかも色良い返事が返ってくるだろうかと。やっと返事が来て、相手が読解してくれて、こちらの意見を了解してくれたことが分かり、一安心した。このことを昨日のこのように覚えていた。

「私は語学が弱いので」と言う人がよくいるが、「英語は語学ではない、ただの伝達道具・手段である。」と私は考える。語学(学問)なら研究によって成果が得られるが、道具・手段を研究しても成果、即ち読み書きや会話は上手になりません。この使い方の体得は、繰り返し、繰り返し訓練するより他にない道はない。私も学校で英語を勉強すること十年だが、即戦力として、特に会話は殆ど役に立たなかった。しかし、読み書きは基礎としては十分に役立ったように思う。今は読み書きと話すことは、仕事の上でも生活でも不便を感じないようになつたが、聞く方は未だにあまり良くなつたとは言えない。聞くことは小さい時から聞くチャンスの多いか少ないかに影響されると考えられる。これから得た私の教訓は、「金を払って勉強するよりも、

金を得ながら学ぶ方が身につく」と言うことである。凡人は、「月謝を払ってもそれほど真剣に勉強しないが、給料を貰いながらだと一生懸命勉強する」と言うことである。その気になって中学、高校と基礎をしっかりと勉強しておけば、必ず役立つことは言うまでもない。ここにまた六年いることになった。

さあ外国へ!! 「あつ!そこに英語のしやべれる資材屋がいる。お前シンガポールへ行つて、資材を担当しろ」これが良かったか悪かったか、その後、外国との関係をずっと持ち続けるきつかけになった。この時、数万人いた会社の中に英語をしやべれる資材屋が国内にはいなかったのだろうか。ともかく、これで「ロンドン行き」には、なおほど遠いが家内と長男の親子三人で外国へ行くことができた。

1970年のことです。やっと日本人が観光旅行として自由に外国へ旅行ができるようになった頃かと思えます。シンガポールもその頃は、まだまだ発展途上国でマレーシアから分離独立し、やっと独立国らしくなりつつある時であった。その上、イギリスがスエズ運河の権利を放棄して、スエズ運河の管理がエジプトに返還されたばかりの頃で、イギリスの労働党政権がスエズ運河以東から軍隊を撤退すると英断を下して、シンガポールからも英豪軍が撤退した後であった。そのため、経済的にも軍需がなくなり困っていた。時の総理大臣のリー・カンユ首相がそれまでの中継貿易と軍需頼みでなく、工業立国政策を策定し、外国資本と外国技術の導入を奨励していた。その様な状況下で私は新しい造船所建設と新造船建造のための一員として赴任した。

全く何もない海岸端のぬかるみの埋立地に、言葉もなかなか通じにくい現地の人たちから教えて、建造ドックを掘り、工場を建て、

倉庫を建て、事務所を建て、そして建造用の資材を集め、新造船をつぎつぎと完成できたことは、男冥利に尽きた。今から考えると良くぞやったと、「自分をほめてやりたい」(誰かがこんなことを言ったついで)と思うとともに、若ければこそ思い切つてできたと思う。また、本人の意思とは関係なく、資材管理の合理化の方法を勉強し、給料を貰いながら英語を学んだことが、この時多に役立つことになった。ここにも日本での準備期間を入れて六年いて、子供が二人ふえて親子五人で帰国することになった。

シंगाポールに赴任した時、給料が手取りで、二倍になり先述のリー・カンユ首相の給料より多いことが驚きであったが、六年後に帰国した時に貰った給料が、シंगाポールの最後の給料よりやや多いだけだったことも、更なる驚きであった。また円とドルとの為替の交換レートは、ドルが三百六十円であったものが、昭和七十四年のスミノニヤンの合意により一ドルが二百八十円(?)と円高ドル安となった。その時、無知であったため帰国時に、例えば、七百二十万円を持ち帰れると思っていたものが、五百六十万円しか持ち帰れなくなった。その差額の百六十万円の為替差損をこうむったことになる。最近為替の交換レートの変動が話題になり今や一ドルが百円と当時と比べものにならない程の安い円高ドル安となった。普段は気にならないことが、皆さんも直接、間接的に影響していることが分かっていないと、いつとんだひどい目に会うか分かりません。特に、外国へ旅行する時には、外貨への交換時に気を付けねばなりません。直接損得が響いてきます。

帰国後、しばらく資材部に籍を置いていたが、またまた、「イタリヤへの技術指導チームに参加しろ」と言われ、六十歳の定年にな

るまで、色々な国に行き、工場の管理技術の指導をしたり、英文で管理技術の指導書を書いたりすることになった。その中には、先進国もあれば発展途上国もあり、変化に富んだ体験をしました。大げさに言えば、東と西・南と北の文化の激突、融合と向き合い、工業技術の格差とその向上の支援が仕事となった。その時々々の現場で直接見聞きした一端を次号に挿話風に取り上げてみたい。

再びメキシコを訪ねて

昭和二〇年卒 渡辺 昭典

私達夫婦は今回メキシコの日系二世のご家族から、お嬢さんの結婚式に招かれて、老体に鞭打ち思い切つて渡航することにした。

当会報6号で若干この国について触れ紹介する機会を得たが、今回もその補足を兼ねて記してみたが、この国は吾が国の五倍余りの広大な国土を有しており、また太平洋と大西洋に囲まれる長い海岸線を有し、標高ゼロメートルの熱帯や二千メートルを超える温帯と多様な気象条件を有するために、農産物も多種多様であり年中豊富な果物が楽しめる。また世界有数の天然資源豊かな国でもあり銀をはじめ金、銅、鉄等また石油は中南米最大の産油国でもある。

広い国だけに地域性もまたさまざままで私達の住んだのはサンルイスポトシ、仕事場もその郊外にあり、年間雨量も五〇〇ミリ前後の大変な乾燥地であった。市内に川らしいものはなく、井戸は一〇〇メートル以上の深いところから汲み上げており、現在これ以上井戸を掘ることは禁じられているという。平地にできる作物も限られ周辺の山に山林らしいものはなく、目につくのはサボテンばかりである。こんなところで養蚕の教育ができるのか

と思わせる地域であるが、養蚕センターを置くべき施設がここにしか無かったとか？まあ教育はここで、実践は他地域でということも考えられるので了解したが、やはり水不足に悩まされることが多かったが桑病、蚕病はあまりみられず成績は良かった。ただ普及への努力と指導が今後の問題として残されている。政府の肩入れ、指導性の有無が将来性を大きく支配しそうである。実験によつて良い繭の得られることは実証された。折角の皆の努力が実を結んで欲しいのである。先の国政選挙では初めて国民行動党が勝利を収めた。今後の動向にどんな変化があるか、良い方向へ向うことが希われるのである。



グアダハラ市の一教会

初めての外国への旅

昭和四〇年卒 桑原 草子

生まれて初めて外国に行ったのは今からもう二十四年も前のこと、昭和五十一年の七月

盛夏、当時はまだ成田空港は開かれておらず、羽田から飛び立った。南回りで、たしか二十五時間かけてまずアテネまで飛んだ。初めて、それも空から見る香港の街は狭い所にビルが滝のように林立しており、異様に見えた。トランジットで降りたバンコックの空港はまるでサウナのように蒸し暑く、暑い盛りの東京から行った私は、上には上があるものだと感心した。

夕日を追つて暫く飛ぶとやがて眼下に茶色の地面が現れ延々と続いた。その殺伐たる土地を定規で引いたような直線が長くのびている。中東の砂漠とパイプラインであった。砂と言えば瀬戸内海の砂浜や、映像で見た鳥取砂丘の風紋のイメージくらいしか持つていなかった私は、眼下に連なる茶色の岩山には、「これが砂漠というものか」と一驚した。地中海に出ると間もなく「ただいまロードス島が見えます」と言う機内アナウンスがあり、同行者の一人が甚く感激して窓に張り付いたが、恥ずかしいことに私はその時、ロードス島と聞いてもピンと来るものがなく、無学を恥じつつ小さくなって座っていた。

アテネから当時の西ドイツに入り、ボンとミュンスタルの大学に籍を置いて、二年半の学生生活を送った。

ロードス島の一件の挽回と言うわけでもないが、休暇になると、せつせとアルプスを越えて、ヨーロッパの古典ゆかりの地を旅行した。ギリシャ旅行の準備をしながら、ある夜エーゲ海の地図を寮の部屋の壁に張つて寝たら、豊かに波打つ紫紺の海原が夢に現れた。地図の海の色だった。その後実際に見たエーゲ海もまさにその色だった。正夢というのでなかならうが、少々不思議な気がした。

昭和五十四年の真冬一月初旬、今度は逆の南回りで帰途についた。陸路で何度も越えたことのあるアルプスの上空は、その日快晴で

あった。眼下は見渡す限り雪ばかり、峰と尾根が様々な起伏をなし、どこまでも白く連なっている。一時間位、真冬のアルプス連山の眺めを堪能して、やっと越え、初めてアルプスの厚みを知った。アテネの近くでオリンポスの峰が、ちょうど私の目の高さに現れた。霧の中から峨峨たる峰が数本突き出し、その峰が目の前に、手に取るように近くにあった。実に絵に描いたようなとしか言い様のない景観に、これぞまさに、神々の御座と納得した。アテネの空港に降りしつ、真下に見たギリシャの海岸線のギザギザの美しさも忘れられない。

しかし、なんと言っても美しかったのは、成田へ向かって高度を下げていく飛行機の窓に入ってきた富士山の姿である。それは広い雲海の中に優雅に佇み、気品に満ちていた。この富士山が、長い旅の終りに私が初めて目にした日本であった。私を最初に出迎えてくれた日本であった。この時初めて私は、富士山の美しさを知った。そして富士山とは日本であるということを理解した。

いま思えば、最後にこのように日本に迎えられるためにこそ、二年半の外国への旅はあったのだという気がする。

平成十二年度基金出資者芳名

- 堀井 昌洋 (昭和二十年卒)
- 信永 利馬 (昭和二十四年卒)
- 服部 弘子 (昭和三十三年卒)
- 志村 千里 (昭和四十一年卒)

平成十二年度総会の御案内

平成十二年度 東京格致会総会並びに懇親会を左記により開催いたします。

本年は西暦二〇〇〇年という二十世紀最後の節目の年でもありますので、賑やかな総会とするべく、実行委員会を設置し、準備を進めて参りました。その結果、特別企画「ミレニアム記念講演会」を予定しております。

皆様方におかれましては万障お繰り合わせの上ご同級等をお誘いいただき多数の方々ご参加下さいますようお願いいたします。

平成十二年九月東京格致会
会長 平田 耕司

ミレニアム総会実行委員会

一、日時 平成十二年十月七日(土)
午後一時から五時

二、場所 山水楼
千代田区丸の内三一一一
国際ビル2F

〇三―三二二―三三〇―
〇三―三三〇―三三〇―
受付(二・三〇〇―三三〇〇)

三、内容 総会

(二・三〇〇―三三・二〇〇)
記念講演
(二・三二五―二四・一〇〇)
懇親会
(二四・四〇―二七・〇〇〇)
(福引抽せん会、その他)

四、総会費

男性 八、〇〇〇円
女性 五、〇〇〇円



●年会費についてのお断り● 事務局

東京格致会は、平成五年から年会費(年額二千元)をお願いしております。

この年会費は、会報(一〇〇〇部)の発行、総会・役員会等の会合案内印刷費用及び郵送料、その他経常的運営費にあてられています。会員の皆さまにおかれましては会の運営についてご理解をいただきましてよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

★年会費(二千元)振込先

郵便振替 〇〇一五〇七七一二九五〇

東京格致会

なお、総会出席者はその際総会費とは別にこの年会費を支払われても結構です。

(編集後記)

▼このところグローバル化が進むなか、東京格致会の会員におかれましては世界各地でご活躍された方が多数いらっしゃいます。今年、西暦二千年という二十世紀を締めくくる年でもありますので、今回の会報は、この半世紀を振り返り「海外体験特集」を企画いたしました。ご寄稿いただきました皆さま方に編集関係者一同より心から御礼を申し上げます。

▼また今回も、母校の福永校長先生、伊達同窓会長より最近の状況等についてご寄稿をいただきました。公務ご多忙のところご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

▼本会報は今回、東京格致会関係者の皆さま方(団体等)から多数の広告をいただきました。ご協力ありがとうございました。

▼十月七日(土)に開催されます総会は、今回初めて準備委員会が設置されて検討のうえ新企画のもとで「ミレニアム記念特集総会」が予定されております。編集関係者からも多数のご参加をお待ちしております。

▼本会報について、その他の活動ほか何でも結構です。ご意見をお寄せ下さい。お待ちしております。

「東京格致会会報」第八号

平成十二年九月一日 発行
発行人 平田耕司
編集人 友広 寿
事務局 茅ヶ崎市小和田一ノ三ノ七
明賀 肇
電話〇四六七(五二)〇六七三
《振込口座》
◎年会費 郵便振替 〇〇一五〇七七一二九五〇
東京格致会